

都道府県及び生活習慣病検診等管理指導協議会（各がん部会）の活動状況調査

本調査票は厚生労働省の「事業評価のためのチェックリスト(都道府県用)」の項目をベースに、厚生労働科学研究費補助金(がん対策推進総合研究事業)「がん検診の適切な把握法及び精度管理手法の開発に関する研究」班の協力を得て作成しました。

調査1 精度管理指標の把握状況に関する調査

【本調査の対象年度について】

本調査の対象年度は以下のとおりです(令和元年度の担当者が把握可能な最新年度)。

- ・ 令和元年度の検診体制（市区町村や検診機関のチェックリスト遵守状況）
- ・ 平成29年度の検診のプロセス指標*

※ プロセス指標に関する対象年度は、平成28年度または平成30年度も本調査では可とします。
（都道府県によっては直近の地域保健・健康増進事業報告公表値や1年前の検診データを集計・分析しているため）

【回答時の注意事項】

- ・ 令和元年度の業務として行った内容（実績）に基づき、全ての項目にご回答ください。
回答期限（2020年8月）までに完了した場合は○、回答期限以降に確実に完了予定の場合は△、未実施（今後も実施予定無し）の場合は×とご回答ください。
- ・ 全ての市区町村あるいは検診機関で実施している場合にのみ○とご回答ください。本調査における検診機関とは、実際に検診を行う個々の検診機関（医療機関）を指します。
- ・ 回答欄が検診方式（集団/個別）別に分かれている項目については、集団/個別検診各々の状況についてご回答ください。
なお、「集団検診と個別検診を実施しているが、事業評価に基づく検討を検診方式別に行っていない」場合、本調査では両回答欄に×とご回答ください。
さらに、胃がん検診の回答欄が検査方法（エックス線/内視鏡）別に分かれている項目については、エックス線/内視鏡各々の状況についてご回答ください。
□胃部エックス線と胃管内視鏡検診を実施しているが、事業評価に基づく検討を検査方法別に行っていない場合には、本調査では両回答欄に×とご回答ください。
- ・ 対象年度の検診を実施していない場合は、ご回答不要です。【通信欄】にその旨をご記入ください。
- ・ 平成29年度（平成28年度または平成30年度）に胃管内視鏡検診をまだ開始していない（令和元年度では集計できるデータがまだない）場合は、プロセス指標に関連する設問には回答不要です。ただし、令和元年度の体制に関する設問※にご回答のうえ、【通信欄】にその旨をご記入ください。

※ 調査1：1(1)、4(7)～(7-2)、5(1)～(3)、6(1)～6(2-2)
調査2：7(1)～7(5)、8(1)～8(1-2)、8(3)、8(4)、9(1)～9(2)、10(1)～10(3-2)、10(3-5)、10(3-6)、10(3-9)

回答欄(水色のセル)に○、△、×のいずれかを入力してください。

1. 受診者の把握 肺がん検診では、全項目で「胸部エックス線受診者/喀痰細胞診受診者/総受診者」別に把握・集計できていれば○とする	胃がん (エックス線)		胃がん (内視鏡)		大腸がん		肺がん		乳がん		子宮頸がん	
	集団	個別	集団	個別	集団	個別	集団	個別	集団	個別	集団	個別
(1) 令和元年度の対象者数（推計を含む）を把握しましたか	○		○		○		○		○		○	
(2) 平成29年度の受診者数を把握しましたか	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
(2-1) 平成29年度の受診者数（率）を性別・年齢階級別に集計しましたか	○		○		○		○		○		○	
(2-2) 平成29年度の受診者数（率）を市区町村別に集計しましたか	○		○		○		○		○		○	
(2-3) 平成29年度の受診者数を検診機関別に集計しましたか	○		○		○		○		○		○	
(2-4) 平成29年度の受診者数を検診受診歴別 ^{注1)} に集計しましたか	×		×		×		×		×		×	

2. 要精検率の把握 肺がん検診では、全項目で「胸部エックス線受診者/喀痰細胞診受診者/総受診者」別に把握・集計できていれば○とする	胃がん (エックス線)		胃がん (内視鏡)		大腸がん		肺がん		乳がん		子宮頸がん	
	集団	個別	集団	個別	集団	個別	集団	個別	集団	個別	集団	個別
(1) 平成29年度の要精検率を把握しましたか	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
(1-1) 平成29年度の要精検率を性別・年齢階級別に集計しましたか	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
(1-2) 平成29年度の要精検率を市区町村別に集計しましたか	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
(1-3) 平成29年度の要精検率を検診機関別に集計しましたか	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
(1-4) 平成29年度の要精検率を検診受診歴別 ^{注1)} に集計しましたか	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×

3. 精検受診率の把握 肺がん検診では、全項目で「胸部エックス線受診者/喀痰細胞診受診者/総受診者」別に把握・集計できていれば○とする	胃がん (エックス線)		胃がん (内視鏡)		大腸がん		肺がん		乳がん		子宮頸がん	
	集団	個別	集団	個別	集団	個別	集団	個別	集団	個別	集団	個別
(1) 平成29年度の精検受診率を把握しましたか	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
(1-1) 平成29年度の精検受診率を性別・年齢階級別に集計しましたか	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
(1-2) 平成29年度の精検受診率を市区町村別に集計しましたか	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
(1-3) 平成29年度の精検受診率を検診機関別に集計しましたか	×	○	×	○	×	○	×	○	×	○	×	○
(1-4) 平成29年度の精検受診率を検診受診歴別 ^{注1)} に集計しましたか	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
(2) 平成29年度の精検未把握率を把握しましたか	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

解説：未把握は、精検受診の有無が分からないもの、及び(精検受診したとしても)精検結果が正確に分からないもの全てを指します

4. 精密検査結果の把握 肺がん検診では、全項目で「胸部エックス線受診者/喀痰細胞診受診者/総受診者」別に把握・集計できていれば○とする	胃がん (エックス線)		胃がん (内視鏡)		大腸がん		肺がん		乳がん		子宮頸がん	
	集団	個別	集団	個別	集団	個別	集団	個別	集団	個別	集団	個別
(1) 平成29年度のがん発見率を把握しましたか	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
(1-1) 平成29年度のがん発見率を性別・年齢階級別に集計しましたか	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
(1-2) 平成29年度のがん発見率を市区町村別に集計しましたか	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
(1-3) 平成29年度のがん発見率を検診機関別に集計しましたか	×	○	×	○	×	○	×	○	×	○	×	○
(1-4) 平成29年度のがん発見率を検診受診歴別 ^{注1)} に集計しましたか	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
(1-5) 平成29年度のがん発見率を検診方法別(マンモグラフィ単独/視触診・マンモグラフィ併用)に集計しましたか	△	△	△	△	△	△	△	△	○	○	△	△
(2) 平成29年度の発見がんに対する早期がん割合を把握しましたか 解説：肺がんでは臨床病期0～I期のがん割合、乳がんでは臨床病期I期までのがん割合を指します	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△
(2-1) 平成29年度の早期がん割合を性別・年齢階級別に集計しましたか	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△
(2-2) 平成29年度の早期がん割合を市区町村別に集計しましたか	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△
(2-3) 平成29年度の早期がん割合を検診機関別に集計しましたか	×	○	×	○	×	○	×	○	×	○	△	△
(2-4) 平成29年度の早期がん割合を検診受診歴別 ^{注1)} に集計しましたか	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	△	△
(2-5) 平成29年度の早期がん割合を検診方法別(マンモグラフィ単独/視触診・マンモグラフィ併用)に集計しましたか	△	△	△	△	△	△	△	△	○	○	△	△
(3) 平成29年度の粘膜内がん(胃がん、大腸がん)・非浸潤がん(乳がん)を区別しましたか	×	×	×	×	○	○	△	△	○	○	△	△
(4) (子宮頸がん検診)平成29年度の上皮内病変(CINなど)数を区分毎に集計しましたか 解説：病変は①～④の区分毎に分けて集計すること ① CIN3または上皮内腺がん(AIS)の数 ② CIN2の数 ③ CIN1の数 ④ 腺異形成の数	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	○	○
(4-1) (子宮頸がん検診)平成29年度の上皮内病変(CINなど)数を年齢階級別に集計しましたか	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	○	○
(4-2) (子宮頸がん検診)平成29年度の上皮内病変(CINなど)数を市区町村別に集計しましたか	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	○	○
(4-3) (子宮頸がん検診)平成29年度の上皮内病変(CINなど)数を検診機関別に集計しましたか	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	○	○
(4-4) (子宮頸がん検診)平成29年度の上皮内病変(CINなど)数を検診受診歴別 ^{注1)} に集計しましたか	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	×	×
(5) (子宮頸がん検診)平成29年度の発見がんに対する微小浸潤がん割合を把握しましたか 解説：微小浸潤がんは進行度IA期のものを指します	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	×	×
(5-1) (子宮頸がん検診)平成29年度の微小浸潤がん割合を年齢階級別に集計しましたか	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	×	×
(5-2) (子宮頸がん検診)平成29年度の微小浸潤がん割合を市区町村別に集計しましたか	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	×	×
(5-3) (子宮頸がん検診)平成29年度の微小浸潤がん割合を検診機関別に集計しましたか	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	×	×
(5-4) (子宮頸がん検診)平成29年度の微小浸潤がん割合を検診受診歴別 ^{注1)} に集計しましたか	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	×	×
(6) 平成29年度の陽性反応適中度を把握しましたか	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
(6-1) 平成29年度の陽性反応適中度を性別・年齢階級別に集計しましたか	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
(6-2) 平成29年度の陽性反応適中度を市区町村別に集計しましたか	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
(6-3) 平成29年度の陽性反応適中度を検診機関別に集計しましたか	×	○	×	○	×	○	×	○	×	○	×	○
(6-4) 平成29年度の陽性反応適中度を検診受診歴別 ^{注1)} に集計しましたか	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
(6-5) 平成29年度の陽性反応適中度を検診方法別(マンモグラフィ単独/視触診・マンモグラフィ併用)に集計しましたか	△	△	△	△	△	△	△	△	○	○	△	△
(7) 平成29年度の発見がんについて追跡調査を実施しましたか	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
(7-1) 平成29年度の発見がんの追跡所見・病理所見について把握しましたか	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
(7-2) 平成29年度の発見がんの予後調査(生存率・死亡率の分析など)を実施しましたか	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
解説：この項目は、現在のがん部会の体制では容易でない都道府県も多いが、がん検診の精度管理という点から言えば本来は必要です												

5. 偽陰性例（がん）の把握 検診の実施年度は問いません		胃がん	大腸がん	肺がん	乳がん	子宮頸がん
以下の項目は、現在のがん部会の体制では容易でない都道府県が多いが、がん検診の精度管理という点から言えば本来は必要である						
(1)	（受診者の追跡調査や地域がん登録等により）検診受診後の偽陰性例を把握しましたか 解説： 検診受診時には陰性であったが、その後次回の検診までに、検診以外で発見されたがんを指します（基本的には1年未満に発見された大腸がん・肺がん、2年未満に発見された胃がん・乳がん・子宮頸がん）	×	×	×	×	×
(2)	偽陰性例の把握のために、地域がん登録のデータを活用しましたか 解説： 市区町村から、がん検診の偽陰性例の把握のために地域がん登録データの提供依頼があった際に、提供できる体制があれば○とご回答ください。	×	×	×	×	×
(3)	検診受診後1年以上経過してから発見された大腸がん・肺がん、2年以上経過してから発見された胃がん・乳がん、子宮頸がんを把握しましたか 解説： 住民検診受診後、規定された次回の検診（基本的には、大腸・肺がん検診は1年後、胃・乳・子宮頸がん検診は2年後）を受けずに、検診以外で発見されたがんを指します	×	×	×	×	×

6. 不利益の調査 検診の実施年度は問いません		胃がん (エックス線)	胃がん (内視鏡)	大腸がん	肺がん	乳がん	子宮頸がん
以下4項目は次のような方法によって把握が可能である ・厚生労働省「地域保健・健康増進事業報告」の「偶発症の有無別人数」欄に全ての市区町村のデータを集計して ・主要な医療機関（検診や、精密検査を担当する機関）に、検診対象者の検査・治療における偶発症を報告していただくための依頼文書 ^{注2)} を送付し、その後報告されたものを集計している							
(1)	検診受診後6ヶ月（1年）以内の死亡者を把握しましたか 解説： 検査あるいは治療での偶発症によるもの。ただし、原疾患の悪化によるものは除きます	×	×	×	×	×	×
(2)	精密検査による偶発症を把握しましたか	×	×	×	×	×	×
(2-1)	消化管穿孔例（胃がん）、腸管穿孔例（大腸がん）、精密検査に伴う気胸や感染症（肺がん）、治療が必要な中等度以上の出血例（乳がん・子宮頸がん）を把握しましたか	×	×	×	×	×	×
(2-2)	その他の重要な偶発症を把握しましたか 解説： 入院治療を要するものを指します（例：前投薬起因性ショック、輸血や手術を要する程度の消化管出血、腹膜炎（胃がん、大腸がん）、経皮的肺穿刺や気管支生検による多量出血（肺がん）、検査後の骨盤内感染症（子宮頸がん）、穿刺吸引細胞診や針生検による感染症（乳がん）等）	×	×	×	×	×	×

注1) 初回受診者及び非初回受診者等の受診歴別：初回受診者の定義は、過去3年に受診歴がない者（胃がん・大腸がん・乳がん・子宮頸がん）、前年に受診歴がない者（肺がん）
注2) 依頼文書の雛型は「自治体のためのがん検診精度管理支援のページ」<http://nxc.jp/nccscr-commu/>に掲載しています。

続けて、次のワークシート「調査2 事業評価の実施状況に関する調査」にご回答ください。